

大津市立志賀南幼稚園

日時：2019年2月22日（金）13:15-17:15

2019年2月28日（木）9:30-16:00

場所：大津市和邇今宿 482-1

和邇川沿いにあり、のどかな地域の幼稚園。来年度から小学生になる5歳児を対象にした研修でした。和邇小学校の教員も参加いただき、幼稚園の中で終わる研修ではなく、来年度どのような子が小学校に入ってくるかという縦のつながりを見ることもできた研修となりました。フィールドは近隣の小野神社の境内で、雨の中行われ、雨だからこそ得られる感覚もありました。

（対象：5歳児35名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。講師 島川武治（しまっち）さん

自然は生きていることを感じよう

木に触ったり、落ちている木の実をじっくり観察し様々な自然物が落ちていることに気づきます。落ちているものはどこから出てきたのか、またそれが自然にどう影響するかを考えます。

また、木の表情を考えることで木の個々の違いが見え、木は生きていることに気づきます。

生きていることから、自然の循環が見えてきます。



ルーペでコケや、落ちているものを観察することで、小さな世界や様々な物が落ちていることに気づく。

木の表情を考えることで、木々によって違う表情が見え、木は生きていることにつながる。「これは驚いている表情の木です」



実一葉一玉入れ

雨の降っている中、まずは落ちている松ぼっくりを3個拾い、勝ったら相手の松ぼっくりを1つもらう。葉っぱでも同様に行い、少しずつ雨の中の自然に慣れていく。

ジャンケンの結果から、実チームと葉チームに分かれ、玉入れをする。玉入れをしながら木の実と葉っぱの違いに気づき、投げやすさや自身で工夫して入れるなどの考えにつなげる。何回か玉入れを行い、実と葉の違いに気づき、木の実と葉っぱの役割を知るようにするプログラムを行った。

松ぼっくりを3個拾おう！どこに多く落ちているかな？



松ぼっくりを集めるためにジャンケン！「いっぱい勝つぞ」

ジャンケンから、実チーム・葉チーム分かれて「がんばるぞー、実ー！」

どうやったら多く入るかな？実の方が投げやすい？葉っぱの方がいっぱい？



ともだちほしいな、おのっきー！

途中どこからか、声が聞こえてきます。聞こえる方へ行くとなんと木に顔があります。木の名前は「おのっきー」。彼は他の木に顔をつけるようにお願いします。

木に顔があり、しゃべるといところから子ども達を引き込み、他の木の顔を作っていこうというプログラムです。顔を作る時、木や葉、実にも色々な種類があることを知り、木にも命があることを気づいてもらうプログラムです。

「耳を澄まして！どこからか声が聞こえるよ！」「ここじゃ、ここじゃ〜」子供たちは驚き木を見ました。



どの木に顔をつけてあげようかな？決まったら、顔を作ろう！



作った顔をみんなにも見せてあげよう。「名前はなんていうの？」



雨でぬれていたおかげで木に葉っぱがくっついた！ここにも顔のある気がいたよ

プログラムを終えてのふりかえりから

- ・今回のように雨の中遊ぶことや、散歩に行くことはめったにない。
- ・自然に目を向けることがなかなか無かった。
- ・自然物が気になるようになったのか、足元を見るようになった。
- ・今回と、前回は合わせ、メッセージ性のあるプログラムを自園に持って帰りたい。
- ・子どもたちは最初は見ていただけだったが、徐々に心を開いていく様子が見えた。
- ・自由な発想、発言が聞けた。
- ・子どもたちが自分で考えた顔で、思い入れがあった。
- ・自分で考え危機回避につながるのではと思った。
- ・就学前の活動を学校は活かしていないのではと感じた。小学校の先生も幅を広げると感じた。
- ・案、準備、目標がしっかりしていたから子どもも楽しめたと思う。
- ・もっと汚れる経験が必要。衛生面を気にする傾向が現代は強いかもと思った。
- ・雨の日は外に言っはいけないという認識であったがそんなことはないと思った。